高１・高２ベーシックレベル現代文　はじめに

現代文の基礎力をつくるとはどういうことでしょうか。**現代文の基礎力をつくる**ためには、どういう学びをしたらよいでしょうか。実は、これは難題です。高校生がこれから大学受験をするために、あるいは専門学校や公務員試験を受けるために、または就職して社会で活躍するために、**“母国語である現代の日本語の書き言葉”**をきちっと読めるようになる、そのために必要な学習ガイドはどのようなものであったらよいのでしょうか。

児童書や小学生低学年向けの文章教材を山のように読めばよいのでしょうか。私はそうは考えません。**読み方のガイド**なしに、ただやさしい文章を読みちらかしても、自己流のくりかえしで、力にはなっていきません。そもそも児童書レベルでは、退屈するでしょうし、皆さんのプライドを傷つけることになるでしょう。

そこで、**プロの文章家が一般市民向けに書いた文章**で、**難しくはない**が**内容上、意外性があって面白いと思える文章**を素材に、**文章の読み方のガイドをする講座**をつくりました。

もちろん、設問もつけています。正しく読めたかをチェックする問題です。ごく一部は大学入試の問題ですが、ほとんどは、**この講座のためのオリジナル設問**です。また、文章の理解には知識も欠かせません。そのため、そうした言葉の知識について問う問題も入れてあります。さらに、「復習テスト」は漢字テストになっています。

文章を正しく読む技術の第一は、**書いてあることのすべてが筆者の意見ではないと知ること**、言いかえれば、**〈筆者の意見〉と〈筆者の意見ではないもの〉を区別すること、それらが会話・対話するように文章は進められるということを知ること**です。詳しくは映像授業のなかで説明します。

では、講義をはじめましょう。

ノートの取り方

テキストへの書き込みが基本です。**赤／青／緑**（黒板では緑ですが、第三の色であれば何色でもＯＫ）**の三色**をご用意ください。文章の対比を色分けして塗っていきます。主役キーワードが赤、敵役キーワードが青、脇役キーワードが緑です。

解法の手順

……**文章（論説も小説も）は、すべて対比とその言い換えの連鎖からできている。そうであるならば……**

少しでもはやく確実に読解するために

1　本文末の**書名＝タイトルをみる　→　テーマが判明**することが多い。さらには、「○○と△△」というようにいきなり**対比発見のてがかり**をくれることもある（現代文では、書名をつけることは多い。とくに共通テスト現代文では必ず記載されます！　論説では文章の終わりに、小説では冒頭に書かれるのが普通です）。

2　**設問の傍線部と問題文**をざっと読み、キーワードの見当をつける（**設問は本文のキーワードにかかわる**ことが多い）。タイトルの次は「キャスティング＝配役＝誰が出演するのか」に注目。本編の前に「エンドロール」を見てしまう感じです。ただし**選択肢まで読んではダメ**。五択で四つは誤りの選択肢なのだから、先に読むと歪んだ先入観ができてしまう。

3　**本文最後の数行をさきに**目を通し、テーマおよび結論、キーワードと対比の見当をつける。ドラマの最終場面、クライマックスを先に見てしまう感じ。とくに評論・論説で有効です。

4　**本文を冒頭から読み**、設問の傍線部にあたるたびに、選択肢を読み、その時点でしぼれるものはしぼる。ただし問いの約半数は全文を読みとおさないと解答できないから、読んでいる途中で判断できないものは先送りにする。

記述式問題解答へのガイドライン

１　**字数指定の八割以上**書くことがのぞましい（「五十字以内で説明せよ」という設問なら四十字以上書く）なお、指定字数の半分（五割）に満たない場合は、採点の対象とならないことが多い（つまり0点）

２　記述解答の採点は、**原則的に加点制（ポイント制）**（キーワード・キーフレーズごとに得点を与える。つまり、余分なことを書いたとしても減点はされないのが普通だから、字数の許す限り、重要と思った語句を記入してやる）

３　**誤字・脱字・略字**はそれぞれ1点減点（とくに略字は印象悪いよ！）

４　**「理由はなにか」「なぜか」**などの問いかけに対しては、「～から。」「～ので。」「～ため。」など理由を示す語でしめくくる。そうでないと、1点減点。逆に、理由を求めている設問ではないのに「から」「ので」「ため」でしめくくると減点だよ。

その他解答欄・解答用紙に関する諸注意

a　｜　｜人｜間｜は｜…｜　→　※**「原稿用紙」ではなく「解答欄」**だから最初のマスを空ける必要はない

b　｜…｜…｜…｜こ｜と｜　→　※**句点なし！**（1点減点）
設問文に「句読点も字数にかぞえる」とある場合、文末には必ず句点（。）をつける・句読点をかぞえるという指摘がない場合でも、「説明終わり」の印として句点（。）をつけるのが原則
ただし、「抜き出せ」という設問の場合は、当然本文のまま（余分なものは付けない）

c　｜…｜…｜…｜こ｜と。｜　→　※**句読点は一文字分！**（1点減点）

より本質的な記述問題への解答の仕方〈答案に盛り込むべき要素〉

> ○具体例は原則としてカット。よりまとまった表現を解答に盛り込むべし！
> ○対比の表現（ＡではなくＢである）！
> ○繰り返し、言い換えられている表現は大事。ただし一本化！

抜き出し問題の諸注意……「語」「語句」「一文」などと表記されているものの範囲について

○「語」＝「一単語」・「ワン＝ワード」・「一品詞」（ただし「一文字」とは限らないからね！）
○「語句」＝複数の単語もありうる。「語」よりも広い概念。「部分」と表記されることもある。
○「一文（文）」＝句点（。）で区切られるまとまり。

語　語句

（例）［心身の一体性、すなわち、身体が真に身体としてあるとき、身体は「外部」的ではない。］この考察は、「道具」を見直す契機になる。

⇒［一文・文］

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1 **対比混乱の誤り** ……本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**の選択肢といってもいい。

2 **同一性分断の誤り** ……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け失敗。同質性分断**ともいう。

3 **正しい対比喪失の誤り** ……本文中で「**A⟷B**」という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手にもちこんだり、「**C⟷D**」といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は「**善⟷悪**」という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4 **不当な全称判断** ……本文中の記述がないのに、「**すべての○○は**」「**あらゆる○○は**」と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5 **不当な限定判断** ……本文中の記述がないのに、「**○○のみ**」「**○○だけ**」と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょう）があります。例えば本文では「人間関係全般について」書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6 **不当な価値判断** （不当な当為判断（とうい））……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、「**○○であるべきだ**」「**○○にしなければならない**」「**○○する必要がある**」と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aのほうが優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を遣う必要があるんだよ。

7 **部分的指摘の誤り** ……本文中では、**「AとともにB」「Aと同時にB」「AしかもB」**と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8 **記述に反する誤り** ……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9 **記述なし** ……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1～8・10～13のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10 **文脈喪失の誤り** ……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11 **物理的スリカエの誤り** ……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢。**小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12 **比喩を文字通りに解釈した誤り** ……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝（ひざ）がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13 **具体例は、一段、落ちる** ……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない（ガクっと正解候補から落ちるイメージ）。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

予習の仕方……**第五講**（ベーシック現代文の中間試験）と**第八講**（ベーシック現代文のゴール）のみ**予習**（映像授業を視聴する前に、自力で文章を読み、設問に解答）しましょう。その後、映像授業の解説を視聴して答え合わせをしてください。この**第五講・第八講以外は予習なし**です。いきなり映像授業を見てください。講義中にガイドします。そのガイドに従って、「では、ここでこの問題にアタックしてください」といったアナウンスがあったら、映像を止めて問題に取り組みましょう。答えが決まったら、映像を再開してください。

復習の仕方について……各講には「復習テスト」が付いていて**漢字テスト**になっています。各講で使用した文章に登場した漢字のテストです。これに対応するために、映像授業の各講を視聴した後、みなさんはその文章を読み直してください。解答・解説ページについている**《本文の対比構造》**も見たうえで、文章をもう一度読みましょう。その中に出てくる重要漢字が復習テストになっています。**文章の内容理解を深めながら、どの漢字が出そうかも考えつつ、よ～く読んでください。**

評論の文章に出てくる漢字がわかるという知識はたいへんに重要です。文章理解を助けてくれるものになります。したがって、これが復習になります。

映像授業内で解説した設問について、もう一度解答し直すというタイプの復習は、現代文学習としてはあまりオススメできません。同じ問題を解き直すのではなく、次々と新しい文章問題にアタックしていくほうがよいです。スタディサプリでは数多くの現代文講座を用意しています。これらにアタックしましょう。

二〇〇字要約のガイドライン

1　原文の**対比**をくみとる記述にする（「～Aではなく、Bである」「一方はAであり、他方はBである」「一般にはAと考えられがちだが、実はBである」など）。

2　**具体例**は原則として捨象（しゃしょう）（カット）する。

3　比喩的表現よりも**明示的・説明的表現**をひろう。繰り返し、言い換えられている表現は大事。ただし一本化。

4　**短文に切って、接続語でつなぐ**。文相互の関係を明確にする。**「そして」は、できるだけ使用しない**。仮に原文中で「そして」が使われていても、要旨をまとめる要約では、使用しないほうがいい。

5　原文を知らない人が読んでも意味の通る内容にする。

6　筆者に成り代わって、内容自体を書く。したがって、**「筆者は～と言っている」といった表現は不要**。

7　原文の流れ通り（冒頭からの順番通りキーワードを出す）でもよいですが、**最重要のメッセージ、一番大事と考えられる対比箇所**を最初にバーンともってくるまとめがオススメです。

おすすめの問題集

『マーク式基礎問題集・現代文・改訂版』（河合出版）
『マーク式総合問題集・国語』（河合出版）……「全統マーク模試」を収録したもの
『はじめての共通テスト対策　国語』エデュケーショナルネットワーク編（Z会）……試行調査2回分＋オリジナル2回分から成り、古文や漢文も含みます。マークシートや記述解答用紙も付属。
『Z会・現代文のトレーニング』（増進会出版）……「入門編／必修編／小説編／記述編／私大編」がそれぞれあります。
『ハイスコア！共通テスト攻略　国語　現代文』Z会編集部（Z会）……〈参考書＋問題集〉、〈マーク式＋記述式〉、〈センターの過去問題＋試行試験問題＋オリジナル〉など、それぞれの要素を盛り込んでいます。現代文のみです。
『入試現代文へのアクセス』（河合出版）……「基本編／発展編／完成編」があります。

おすすめの用語解説集

『読み解くための現代文単語』（シグマベスト・文英堂　小柴大輔　編著）

おすすめの参考書

『小柴大輔の一冊読むだけで現代文の読み方＆解き方が面白いほど身につく本』（KADOKAWA）

教材選定について

- 各テーマ（学問論・文学論・芸術論など）の読書資料になる価値の高い文章をセレクト
- それぞれの学問界を代表する筆者の文章をセレクト
- 設問は一部をのぞき、本講座のためのオリジナル。

目　次

ファーストステップ

第一講　グループ分けして読む
その１《評論》テーマ「芸術論」…… p. 11
その２《評論》テーマ「学問論」…… p. 14

第二講　グループ分け＋言いかえの連続に注目
その１《評論》テーマ「身体の哲学」…… p. 17
その２《評論》テーマ「服の文化」…… p. 20

セカンドステップ

第三講　言いかえの連続に注目（随筆編）
その１《随筆》テーマ「人間の背中」…… p. 24
その２《随筆》テーマ「子供の心理」…… p. 27

第四講　選択肢への対応
その１《評論》テーマ「文学論・俳句論」…… p. 31
その２《評論》テーマ「写真論」…… p. 34

ベーシックレベル現代文の中間試験

第五講　ここまでの成長確認
《評論》テーマ「漫画と社会・マンガとアメリカ」…… p. 38

サードステップ

第六講　長めの文章をグループ分け
その１《評論》第一講　その１の続き…… p. 45
その２《評論》テーマ「認識論」…… p. 50

第七講　長めの文章で言いかえに注目
その１《評論》第二講　その１の続き…… p. 55
その２《評論》第三講　その２の続き…… p. 58

ベーシックレベル現代文のゴール

第八講　実力確認の問題
《随筆》テーマ「哲学　自己と他者」…… p. 65

第一講　グループ分けして読む

その1 《評論》 テーマ「芸術論」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ふつう、絵をほめるばあい、まず、「うまいもんですな」とか、「きれいだわ」とか、「気持がいい、なんてたのしいんだろう」とか言ったりします。ところで、新しい絵にたいしては、どうですか。これにも、いろいろあって、モダニズムのところでお話ししたように、わからないけれどもきれいだ、とか、なにかわからないが気持がいい、というような絵もありますが、そのほかに、どう見てもきれいだと思えないし、うまいとも考えられない、まして、ここちなどみじんもよくはない。つまり絵として、ひっかかりようがない。今までの鑑賞(かんしょう)法では、どうにもかなわないという絵がかなりあるでしょう。いったい、こんなものに、どこに価値があるのか、とお考えになることがあると思います。

ところが、このように、今までそれなしには「すぐれた芸術」とはいえないとされていた絶対の条件がなにひとつなくて、しかも見るものを圧倒し去り、世界観を根底からくつがえしてしまい、以後、そのひとの生活自体を変えてしまうというほどの力をもったもの、――私はこれこそ、ほんとうの芸術だと思うのです。

では、ほんとうの芸術は、なぜここちよくないのでしょうか。さきほどからお話ししているように、すぐれた芸術には、飛躍的な創造があります。時代の常識にさからって、まったく独自のものを、そこに生み出しているわけです。そういうものは、かならず見るひとに一種の緊張を強要します。

なぜかと言いますと、見るひとは自分のもちあわせの教養、つまり絵にたいする既成(きせい)の知識だけでは、どうしてもそれを理解し判断することができないからです。そこには、なんとなくおびやかされるような、不安な気分さえあります。

たとえば、富士山の絵とか、きれいな裸体画、静物画などならば、見なれている――つまり、今までそういうものを、なんども見て知っているから、すうっとそのまま、その世界にひたることができます。なにも努力しないですむ、はなはだ気分がよいわけです。ところが、創造的な芸術には、けっしてそういう安心感がありません。

（岡本太郎『今日の芸術』）

問１　次の語群について、筆者が肯定的に使っている表現にはA、そうではない表現にはBと記しなさい。

①　うまい　②　気持がいい　③　たのしい　④　わからないけれどもきれい
⑤　今までの鑑賞法　⑥　世界観をくつがえす　⑦　時代の常識　⑧　緊張
⑨　もちあわせの教養　⑩　不安な気分

第一講　その１　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　岡本太郎＝おかもと　たろう（一九一一〜一九九六年）神奈川県生まれ。慶應義塾普通部卒。東京美術学校（東京芸術大学）中退。「芸術は爆発だ」などのことばも有名な画家、立体造形の作家。

語句

モダニズム→近代主義

アヴァンギャルド→フランス語で、伝統を打ち破る前衛。英語のアドヴァンス

第一講　グループ分けして読む

その2　《評論》　テーマ「学問論」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」といえり。（中略）されども今広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人（きじん）もあり、下人（げにん）もありて、そのありさま雲と泥との相違あるに似たるは何（なん）ぞや。その次第（しだい）、はなはだ明らかなり。『実語教（じつごきょう）』に、「人学ばざれば智なし、智なき者は愚人（ぐじん）なり」とあり。されば賢人（けんじん）と愚人との別は、学ぶと学ばざるとによりて出来（でき）るものなり。また世の中にむずかしき仕事もあり、やすき仕事もあり。そのむずかしき仕事をする者を身分重き人と名づけ、やすき仕事をする者を身分軽き人という。

（福沢諭吉（ふくざわゆきち）『学問のすすめ』）

問１　筆者の主張として最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

① 人間は生まれながらに平等で人に上下の差はない。
② 人間には生まれながらに富豪や貧者などの上下の差がある。
③ 人間には賢者と愚者の区別がもともと最初からある。
④ 人間の差異は学ぶかどうかによってできてくる。
⑤ 人間には勉強しなかったためむずかしい仕事をする者がいる。

第一講　その2　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　福沢諭吉＝ふくざわ　ゆきち（一八三五〜一九〇一年）中津藩（現在の大分県）の藩士の家に生まれる。慶應義塾の創立者。一九八四年から一万円札の顔。主著『文明論之概略』。『学問のすすめ』は、一七編から成り、各編二〇万部、合計三四〇万部という超ベストセラーだったそうです。

○『実語教』→庶民向けの道徳や教訓の書。起源は平安時代末期ともいわれる。江戸時代の寺子屋ではお習字や修身（道徳）の教科書として使われた。

語句

次第＝しだい→いきさつ、事情、成り行き、理由のこと

復習問題　第一講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）今までの絵画のカン賞法は通用しない。
①干　②鑑　③感　④緩　⑤管

（イ）見るものを圧トウするような作品だ。
①当　②唐　③倒　④頭　⑤踏

（ウ）芸術といえる絶タイの条件を満たしている。
①対　②体　③隊　④耐　⑤態

（エ）考え方や世界カンを根底からくつがえす。
①感　②冠　③間　④勘　⑤観

（オ）発想が飛ヤク的に前進していく。
①約　②役　③訳　④躍　⑤薬

（カ）まったく新しい芸術をソウ造する試みだ。
①創　②想　③宗　④壮　⑤荘

（キ）絵に関するキ成の知識を捨て去る。
①規　②既　③期　④機　⑤記

（ク）新しい芸術に対面するときは緊チョウする。
①超　②調　③長　④帳　⑤張

（ケ）従来の教養を捨てることを強ヨウする。
①用　②洋　③要　④養　⑤陽

（コ）裸体画やセイ物画が展示されている。
①製　②生　③静　④聖　⑤晴

テキスト解答・解説

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1 対比混乱の誤り ……本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**の選択肢といってもいい。

2 同一性分断の誤り ……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け失敗**。**同質性分断**ともいう。

3 正しい対比喪失の誤り ……本文中で「**A↔B**」という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手にもちこんだり、「**C↔D**」といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は「**善↔悪**」という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4 不当な全称判断 ……本文中の記述がないのに、「**すべての○○は**」「**あらゆる○○は**」と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5 不当な限定判断 ……本文中の記述がないのに、「**○○のみ**」「**○○だけ**」と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょう）があります。例えば本文では「人間関係全般について」書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6 不当な価値判断 （不当な当為（とうい）判断）……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、「**○○であるべきだ**」「**○○にしなければならない**」「**○○する必要がある**」と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aのほうが優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を遣う必要があるんだよ。

7 **部分的指摘の誤り** ……本文中では、「AとともにB」「Aと同時にB」「AしかもB」と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8 **記述に反する誤り** ……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9 **記述なし** ……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1〜8・10〜13のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10 **文脈喪失の誤り** ……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11 **物理的スリカエの誤り** ……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢**。小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12 **比喩を文字通りに解釈した誤り** ……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝（ひざ）がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13 **具体例は、一段、落ちる** ……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない（ガクっと正解候補から落ちるイメージ）。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

第一講　グループ分けして読む

その1《評論》テーマ「芸術論」

《本文の対比構造》

主役＝筆者、岡本太郎の考えるほんとうの芸術

- ここちよくない
- 見るものを圧倒・世界観を根底からくつがえす・生活自体を変えてしまう
- 飛躍的な創造
- 一種の緊張・不安な気分

⇕ 主な対比

比較相手＝一般論・ふつう、絵をほめるばあい

- うまい・きれい・気持がいい
- わからないけれどもきれい
- なにかわからないが気持がいい
- 時代の常識・もちあわせの教養
- 既成の知識

《解説》

問１《内容理解・選択肢》

文章が正しく読めるようになる秘訣（ひけつ）の第一は、文章は比較・対比で書いてあるという前提で読むことです。次に、実際に読み始めて、出てくる単語、文をグループ分けしながら読み進めます。グループ分けのもっとも基本になるのは、**〈筆者が主張したいことばのグループ〉**（主役グループです）と**〈比較相手のグループ〉**（世間一般の考え方）という分類です。

文章を誤解して読んでしまう典型が、「書いてあることはすべて筆者の意見のはずだ」という思い込みです。しかし、実際には文章というものは、比較・対比で書かれます。筆者は自分が言いたいことだけ独り言のように書くのではなく、自分と違う考えを紹介し、それと比較・対話するように文章を書きます。文章は呼吸しているといってもよいでしょう。「呼」は息をはいて自説を主張しているところ、「吸」は息を吸って自説と違う意見を取り込んでいるところです。比較しながら語るほうが何を言いたいのかクリアになり、説得力も増します。

現代文のベーシック、基盤づくり、ベースメントとしてグループ分けしながら読むという習慣をつけましょう。

筆者の岡本太郎氏は、奇抜な前衛芸術家として知られた方ですが、ちゃんと比較しながら自分の芸術論を語っています。**〈筆者が考えるほんとうの芸術〉**⟷**〈ふつう、絵をほめるばあい〉**という対比です。

しかも、こうした比較・対比・グループ分けができる、なんらかの目印を見つけることができます。今回の場合、冒頭の「ふつう、絵をほめるばあい」がヒントです。ここから筆者の意見ではない、前フリ、比較相手が紹介されるのだなと推測できます（そういう推測ができることを、みなさんはこの講座で学びましょう）。

次に、第二段落の「ところが」が目印であり、ヒントです。第一段落が前フリで、第二段落から、筆者が考える「ほんとうの芸術」の基準が語られます。したがって、第一段落で挙げられている「うまいもんですな」「気持がいい、なんてたのしいんだろう」「わからないけれどもきれいだ」「なにかわからないが気持がいい」「今までの鑑賞法」に当てはまる①「うまい」・②「気持がいい」・③「たのしい」・④「わからないけれどもきれい」・⑤「今までの鑑賞法」は、筆者が肯定的には使っていない表現ですから、すべてBです。

一方、第二段落の「見るものを圧倒し去り、世界観を根底からくつがえしてしまい、以後、そのひとの生活自体を変えてしま

うというほどの力をもったもの」は、筆者が肯定的に語りたい「ほんとうの芸術」ですから、これにあたる⑥はＡです。

以下、第三段落、第四段落で、今回の対比**〈筆者が考えるほんとうの芸術〉**⟷**〈ふつう、絵をほめるばあい〉**を詳しく言いかえています。こうした対比と言いかえの連続が、文章の基本構造です。

第三段落、第四段落で「ほんとうの芸術」が「ここちよくない」理由が示されます。ほんとうにすぐれた芸術は、「まったく独自」で「飛躍的な創造」がありますから、「時代の常識」にさからいます。そうなると、見るひとも見るひとは自分の常識や「もちあわせの教養」「既成の知識」を使って見ようとするけれども、それでは理解できないからです。そのため「緊張」を強いられますし、「不安な気分」になったりもします。

こうしたわけで、⑦「時代の常識」・⑨「もちあわせの教養」はＢ、⑧「緊張」・⑩「不安な気分」はＡです。

「緊張」や「不安」は、ふつうは良いものとして肯定的には扱われませんが、本文では「ほんとうの芸術」にふれるときの大事なことばなのです。常識どおりのことしか言わないのなら、本など書きませんから、〈世間一般の考え⟷筆者の考え〉が代表的な対比の構造になります。

模範解答

問１　①＝Ｂ　②＝Ｂ　③＝Ｂ　④＝Ｂ　⑤＝Ｂ　⑥＝Ａ　⑦＝Ｂ　⑧＝Ａ　⑨＝Ｂ　⑩＝Ａ

第一講　グループ分けして読む

その2《評論》テーマ「学問論」

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

この世界には、かしこい人もいればおろかな人もいれば、貧しい人もいれば富裕な人もいる事実
『実語教（じつごきょう）』
賢人と愚人は学んだか学ばなかったかの違い

↕ **主な対比**

比較相手＝一般論

天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず

《解説》

その2では、筆者の意見とその他の意見を区別しグループ分けして読む練習を、かの有名な『学問のすすめ』でしてみましょう。これは本当にいい練習になります。一〇〇年以上も前に書かれた文章ですが、やはり、比較・対比です。ところが、多くの人が誤解して読んでいます。冒頭の「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」を筆者の福沢諭吉の意見だと勘違いしています。だって、本の中に書いてあるじゃん、というわけです。しかし、書いてあってもすべてが筆者の意見とは限らない、比較相手かもしれない、前フリかもしれない。そういう前提で読んでいくことが、文章を正しく読む秘訣(ひけつ)でしたね。

福沢諭吉の『学問のすすめ』は、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」を力説した平等主義の書物だ、と多くの人が誤解しています。当時のウルトラ・スーパー・ベストセラーですが、きわめて多数の人が間違って理解している……

問1《内容理解・選択肢》

さあ、みなさんは正しく読んでやりましょう。「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」は「といえり」と付けられているように、「と言われている」「世間一般には言われている」という意味です。①「人間は生まれながらに平等で人に上下の差はない」は、この一般論ですから、筆者の意見ではありません。②の「富豪や貧者などの上下の差がある」、③の「人間には賢者と愚者の区別が〜」は、事実ですが、それぞれ「生まれながらに」「もともと最初から」が×です。生まれたあと、学ぶかどうかで差異がつくられるのです。だからこそタイトルも『学問のすすめ』です。したがって④が正解です。⑤は「勉強しなかったためむずかしい仕事をする者がいる」としていますが、勉強した者が「むずかしい仕事」をすることができ「身分重き人」と尊敬されるのです。したがって、×です。

④以外のすべてが、グループ分けを間違えたり、分けたものを混ぜたりしています。こういう選択肢を対比混乱の誤りと呼びます。

模範解答

問1＝④

復習問題解答

復習問題　第一講　模範解答

（ア）②　（イ）③　（ウ）①　（エ）⑤　（オ）④
（カ）①　（キ）②　（ク）⑤　（ケ）③　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）鑑賞　（イ）圧倒　（ウ）絶対　（エ）世界観　（オ）飛躍
（カ）創造　（キ）既成　（ク）緊張　（ケ）強要　（コ）静物画